



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報  
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501  
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会  
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

# 華麗なルネサンス美術に感嘆

## 設立10周年記念事業「イタリアルネサンス美術紀行」を実施

鷹山宇一記念美術館友の会は結成十周年を迎え、平成15・16年の2ヶ年にわたり各種の記念事業を実施いたします。

昨年実施した「イタリア美術講座」に続いて本年1月20日、海外研修事業として会員25名のご参加をいただき、フィレンツェ・ローマ・ヴェネチア・ミラノの各都市を廻る「イタリア美術紀行」に旅立ちました。奥山研修団長のレポートです。

2004年1月20日朝、雪が舞う七戸を出発。東北新幹線を乗り継ぎ、成田エクスプレスにて空港に到着。フライト予定の時刻まで余裕があるので、旅行社が用意した休憩室で軽い夕食を取り、これからの説明を受けながら、ユーロへの両替、不足のグッズを補充して待ちました。

飛行機は予定より少し遅れて出発しましたが乗り換えのドゴール空港へは予定通り着き、4年前と同じ夜明け前のパリで一休み。これからイタリアの旅の始まりです。

イタリアのお国柄、歩いての観光が多く、特にフィ

レンツェでは市内観光はすべて徒歩でした。今回寒さも例年になく厳しく、ツアの中で風邪が流行しているも誰かがひいている状態となりました。

前回の「スペイン・パリ美術紀行」から帰って、すぐ何回も集まり相談しながら計画を立てて、ついに実行となった旅行。無事に全員が帰国できることを心で祈りながら旅を続けていきました。

たぶん一生に一度のイタリア旅行になると思うので、ぜひとも自分の目で見たところや記念に欲しい物を出発前に決め、それを求める旅でした。

フィレンツェでは、ミケランジェロ広場からの景色、オリジナルのミケランジェロの「ダヴィデ像」、ボッティチエツリの「ヴィーナスの誕生」と「春」を。ローマでは、ミケランジェロのシステイナ礼拝堂「最後の審判」や「天井画」、サン・ピエトロ大聖堂の「ピエタ像」。



ローマ・コロッセオの前にて記念写真  
20年ぶりというローマの雪にびっくり

映画「ローマの休日」のスペイン広場、トレヴィの泉ナポリでカメオのブローチを買うこと。ヴェネチアではグラスを買い、ゴンドラに乗り景色を見ながらカンツォーネを聞くこと。ミラノではレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を鑑賞することでした。

石畳を歩きながらイタリアの歴史と文化に触れ、寒さと戦いながら風邪を引かないように気をつけて、疲れを次の日に残さないように注意しての11日間の旅でした。もし又、ヨーロッパに行けるとしたら、今度は暖かい花の咲く季節に行きたいと思えます。この旅行にご協力下さった役員、ご参加下さった会員の皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。

反省会で多くの参加者からぜひ次の海外研修旅行の企画を早く立てて欲しいと要望していただき、企画した者として嬉しい限りです。又、今回参加できなかった方々からも、この次はぜひとのお声をいただき、励みにさせていただきます。皆様、本当にお疲れさまでした。

研修旅行団長 奥山雅子  
【友の会副会長】

# 「イタリアルネサンス美術紀行」に参加の皆さんからのお便り

## ルネサンスの華「フィレンツェ」

十和田市／中谷 知子

1月21日9時30分ボローニヤ空港に到着。天気は晴れていました。空港には銃を構えた兵隊が二人、物々しい雰囲気の世界の緊張を感じさせられました。バスの窓から糸杉やオリーブ畑の連なる丘：日本と異なる風景を楽しみながら、フィレンツェに到着しました。

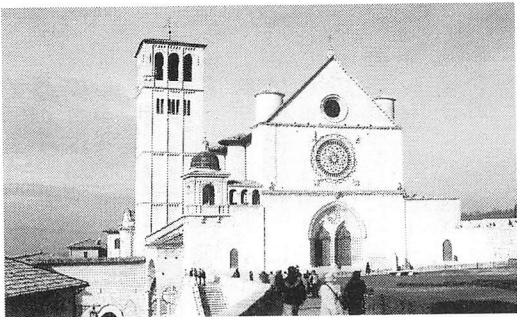
ミケランジェロの丘で集合写真。その後レストランへ。本場のイタリア料理を楽しみました。噂に違わぬスパゲッティの量には、圧倒されるばかり。ワインや生ジュース、生ハムを堪能。(でも、このときは、その後毎食のパターンになるとは思ってもいかなかった。)

その後、アカデミア美術館、ウフィツイ美術館を見学。イタリアルネサンスを代表する傑作の数々を間近に観ることが出来、感動。中でもミケランジェロの「ダビデ像」「ピエタ」、ボッティチエツリ



フィレンツェ 花の聖母教会

の「ヴィーナスの誕生」「春」その他ダ・ヴィンチ、ティツィアーノ、ジオット等の作品を見学。城壁に囲まれた街、フィレンツェは石畳もそのままだに「中世」という時代がそっくりそのまま残っている街という印象で、狭い道路もかえって味わいがありました。



アッシジ



フィレンツェ ミケランジェロの丘から 市内を望み最初の集合記念写真

## ローマ・圧倒された 続けた三日間

青森市／小野 次郎

明るく、ゆっくりと時間が流れるアッシジで世界遺産の大聖堂を見たためか、古都を覆う短日の空の重さと石やレンガには息苦しくなっていた。熟しかけた街路樹のオレンジ、その濃橙色に救われながらガイドの語るテ

ルミニニ(ローマの終着駅)を眺め、過ぎた。復元が進むコロッセオ、右手コンスタンティヌス帝の凱旋門、収穫後のオリーブの木の前約100mは裸石を敷き詰めた古代の路である。

再集合後、フォロ・ローマノへ。途中、4枚の古代ローマ支配域変遷図を見ながら広場見下ろし通りへ。石柱のごろごろする遺跡群、右手奥には元老院の建物。感動の中、歴史の断片を思い起こしながらたたずむ。

ライトアップされたトレヴィの泉ではその狭さに失望し、前向きでコインをほうった。スペイン広場では、階段灯りを頼りに息を切らしながら137段を上り、トリニタ・デイ・モンティ教会へ。初日の見学はこれで終わり。街はすっかり夜のど

ぼりの中にある。知らない町へはいるのは夜がよい、その深さの中で人は詩人にも哲学者にもなれるからだ、と言う言葉がよぎるが、真冬のローマではしかし、光溢れる日中が断然よい。神殿はもちろんのことテヴェレ川、プラタナス並木、サンタ



ローマ ヴァチカン宮殿

情を深くしてくれる。今回のルネサンス美術紀行、ローマに入るまでも世界遺産を含め、連日超級美術品に触れてきた。しかし、展示の無造作はローマも同じだ。あのミケランジェロのピエタも、ラファエロもベルニーニも価値が損なわれる思いで見えて回っているのは私だけだろうか。教徒にとって最高の巡礼地ヴァチカンの大聖堂や美術館のありあまる宝物美術品。ボルゲーゼ美術館のカノーヴァの例の侯爵婦人像の澄んだ肌にも、国宝級溢れる中では感動も薄い。島国日本と大陸、紀元前からの時間差もあるが、歴史を今に語り継ぐ宗教と為政者の強大な権力とその美術品。3日間、圧倒されっぱなしのローマ滞在であった。

(棟方志功記念館館長)

# 鷹山宇一記念美術館の歴史

平成6年8月1日の開館から早いもので10年。今年度はこれを記念して、様々な特別展を企画しております。皆様のご来館をお待ち申し上げますと共に、今後とも、鷹山宇一記念美術館をよろしくお願ひ申し上げます。

## 語り継がれる展覧会を

鷹山 ひばり

美術館が開館して早くも10年の歳月が経ちました。記念すべき10周年の第一弾は「春光うららさくら・桜展」です。成川美術館のご協力により、日本画の大家から新鋭まで、日本の名花「サクラ」を描いた絢爛豪華な展覧会を開催いたします。七戸に来た5年前の3月は大雪が降り続き名のみのも早春でした。しかし桜が



咲き始めると、あつという間に春が来て、厳しい冬を耐える北の大地の「遅くくる春ほど強い春」に大きな感動を覚えました。春の光あふれる美術館で「桜花逍遙」のひとつきをお楽しみ下さい。

夏の企画展は「星野富弘展」を行います。一生かかされている喜びと感謝の詩画作品は、年間45万人以上の入館者を誇る「富弘美術館」に陳列されています。この美術館は群馬県渡良瀬渓谷にあり、容易に出掛けられないところのため、障碍を持つ方々に是非七戸で作品を見て欲しいと、強い思いで臨んだ企画展です。昨年星野先生とお会いをし、七戸展にご出席をお願いしたところ、洋服の上から心臓の鼓動がわかるほど薄い胸板から一今夜にでも逝く体です。お約束はできないけれど、生き

ていたら必ずーとお答え下さいました。「生きる」と云うことは、これほどまでに苛酷なことかと思し潰されそうになった心の中で、健常者には大きな感動を、障碍者には強い勇気が与えられると確信いたしました。

10年の歴史が、この美術館の土台を築きあげてくれました。その時々にお力添えを下さいました数多くの方々のおかげで、今、この美術館の存在理由が明らかになりつつあります。万感の想いを込めて各企画を行い、皆様の記憶に留めて戴ける仕事でご恩返しを申し上げます。

「語り継がれる展覧会を」悔いのない歩みを続けるために日々精進をしていきます。

## 春の特別展

箱根芦ノ湖・成川美術館コレクション

### 「春光うららさくら・桜展」

4月24日(土) ↓ 5月30日(日)

現代日本画に的を絞った膨大なコレクションで知られる箱根芦ノ湖「成川美術館」から、山本丘人、牧進ら、大家から中堅・新鋭気鋭作家まで、桜を描いた現代日本画約40点をご紹介します。

また、会期中の5月中旬から下旬にかけて、七戸町・天王神社において恒例の「天王つつじ祭り」が開催されます。500本余りのつつじが咲き乱れ、神社の山全体が橙色に染まります。

生かされている喜びと感謝  
星野富弘「花の詩画展」  
7月17日(土) ↓ 8月21日(土)

中学の体育教師だった星野富弘さんは、生徒たちに器械体操の模範演技を見せていた時、人生を大きく変える事故に遭遇しました。頭からの転落、一瞬の出来事が星野さんの身体に肩から下の全身麻痺という障害を残しました。24歳の時です。動けない苛立ちや将来への不安にさいなまれながら、星野さんは「生きる」と真剣に向き合い、入院生活を送るうち、ふとしたきっかけで口に加えた筆で絵や詩をかきはじめました。今展では、水彩画80点、

## 夏の特別展

星野富弘「べんべん草」

神様がたまたまだいて、  
うろたえて下りてきた。  
その肩をたかせるもろぼう  
風を揺らめかすべんべん草。  
実を隠して、  
さんぽ日が本音を  
采らうらな気がした



ペン画20点を中心に、心の奥深くに届く星野さんの詩画を紹介します。

## 秋の特別展①

第64回国際写真サロン展  
9月2日(木) ↓ 9月12日(日)

当館恒例の本展は、国内で最も権威ある写真コンテストとして知られる「国際写真サロン」の、最高賞II審査委員特別賞6点を含む入選全130点を紹介する全国巡回展です。国内外、プロ・アマ問わず、人物・風景・演出写真などなど、写真表現の可能性に挑んだ多彩な作品の数々を是非お楽しみ下さい。



▲牧進「花逍遙」(1997年)

### ●さくら・桜展 Information●

入館時間/10:00~17:30  
(閉館は18:00)  
入館料/一般800円、学生400円  
小中学生200円  
※前売券・20名様以上の団体は各2割引。友の会会員の皆様は特典通り  
※会期中は無休です

# 秋の特別展②

鷹山宇一とその仲間たちⅡ

なんて素敵に織田廣喜展

9月18日(土) ↓ 10月17日(日)

1914年、福岡県に生まれ苦学して洋画家となった織田廣喜は、絵筆一筋の人生を邁進、二科会常務理事、日本芸術院会員として現在も意欲的な創作活動を続けています。また一方で、二科展で知り合い結ばれた妻・リラさんが落馬事故で寝たきりとなつてからは、天国へ召される1998年まで、自宅にて先生自らが献身的に介護をされ共に生きてこられたことは、多くの美術ファンも周知のところです。

本展は、作品と共にお人柄も素敵織田廣喜先生の自宅秘蔵作品を中心に紹介するもので、「東郷青児展」に続く、鷹山宇一が影響され且つ影響を与えた美術家を紹介するシリーズの第2弾です！

# 冬の特別展

鷹山賞児童作品展

第4回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

11月21日(日) ↓ 12月19日(日)

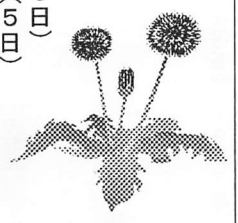
青森県南部地方小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞展」は、未来の鷹山宇一の誕生を願い、創作活動の喜びを味わってもらえたらと願い開催する絵画コンテストです。その入賞入選に輝いた力作の数々を紹介します。

あわせて開催する「世界児童画展」は、世界各国の子どもたちに作品を公募した、日本品質保証機構(JQA)、国際認証機関ネットワーク(IQnet)主催の絵画コンテスト(応募総数12、479点から優秀作品を紹介するものです。自分たちの周りの環境がどのような環境になっているか、どんな環境を理想としているのか? 国も文化も異なる子どもたちの地球環境に寄せる思いが伝わってきます。

# 展示替え!!

鷹山宇一コレクション・装飾卓上ランプを一部展示替えしました。19世紀後半西洋のオイルランプとともに、明治後期の日本のランプを紹介しています。是非ご覧ください。

# 美術目録



## 【12月】

- ◇鷹山館長織笠小学校にて講演会(3日)
- ◇城南小学校3年生、5年生(来館)(5日)
- ◇美術館アートクラブ「粘土でバッチ」開催(6・7日)
- ◇鷹山宇一誕生記念日無料開館の実施/「遊蝶記」の集い開催/七戸小学校5年生(来館)(10日)
- ◇「七彩色」油絵教室開催(13日)
- ◇第3回鷹山賞児童画展・第3回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展最終日(14日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(16日・19日)
- ◇美術館アートクラブ「絵を描こう④水彩絵の具」開催/火曜サロン開催(20日)
- ◇年末年始休館(30日・1月2日)

## 【1月】

- ◇平成15年度友の会第5回役員会開催(10日)
- ◇美術館アートクラブ「迷路」開催(10・11日)
- ◇青森朝日放送にて鷹山館長取材番組「美術館長はお母さん」を放映(20日)/友の会主催海外研修旅行「イタリアルネサンス美術紀行」を実施(20日・30日)
- ◇天間西小学校にて移動美術講座を開催(28日)
- ◇青森県主催「子ども文化」(於青森市)会議に鷹山館長、曾根原出席(30日)

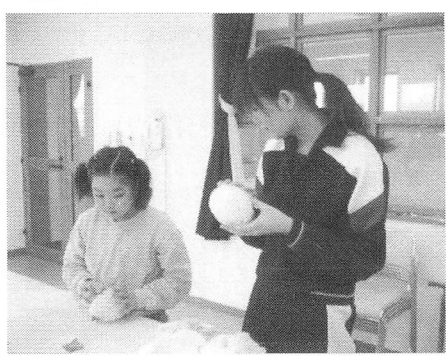
## 【2月】

- ◇節分の豆まきを実施(3日)
- ◇館内整理のため臨時休館(3日・8日)
- ◇天間館中学校にて移動美術講座を開催(6日)
- ◇青森県主催「子ども文化」(於青森市)会議に鷹山館長、曾根原出席(12日)
- ◇「七彩色」油絵教室開催(15日)
- ◇鷹山館長東奥日報社懇談会に出席(16日)
- ◇天間東小学校、榎木林中学校にて移動美術講座を開催(19日)

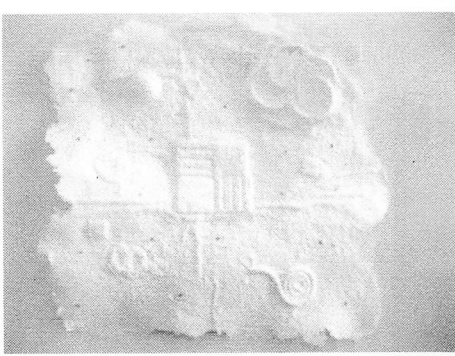
- ◇美術館アートクラブ「紙すき」開催(21・22日)
- ◇城南小学校にて移動美術講座を開催(24日)
- ◇青森県主催「子ども文化」(於八戸市)会議に鷹山館長、曾根原出席/友の会主催「イタリアルネサンス美術紀行」反省会を開催(29日)

# 美術館 アートクラブ

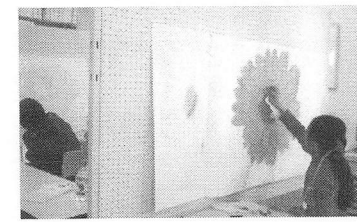
【担当/曾根原牧子】



▶「紙漉き」(2/21、22) 漉いたばかりの紙の繊維を使って、タイルや貝殻などの型をとったり、風船に貼り付けたりしました。 ←「恐竜の卵みたい」



▶「絵を描こう!番外編」(3/5、6) 「どういった気持ちで描いたの?」という質問に、「きれいに似ているように気持ちを含めて描きました。」



2月と3月の講座は、これまでの講座から選り、視点を替えて行いました。2月は立体的な紙作り「紙漉き②」。3月は一輪の花をラシヤ紙に大きく描く「絵を描こう!番外編」。この2つの講座にはボランティアアスタツフとして七戸高校美術部員の方が参加して下さいました。高校生が制作する様子を間近にして、技術はもちろん、感性や発想も子どもたちにとってはいい刺激になったようです。

# 国際写真サロン

## 青森県から16年ぶり入選

### 〈十和田市の国分光明氏快挙〉

昨年12月発表された朝日新聞社・全日本写真連盟主催第64回国際写真サロン展に青森県から16年ぶりの入賞者が出ました。入賞された国分光明氏は十和田市在住で全日本写真連盟十和田支部長をされております。

三本木中学校で美術の先生として勤務していた昭和30年代、写真部顧問として、生徒に写真の楽しさ、技術のノウハウを指導され、それがきっかけで今プロの写真家として活躍されている和田光弘氏がおられます。和田氏も大学生時代から、この国際写真サロン展に応募し7年連続8点の入賞の実績をお持ちです。

国分氏は弘前大学教育学部美術科を卒業され、中学校の美術の先生をされておりました。昭和55年全日本写真連盟十和田支部に入会され、若手の指導に当たられ、今上十三地区で頑張っているアマチュア写真家の大半が、国分氏の指導、影響を受



▲国分氏の入選作品「光の中で」(実際はカラー写真です)

けております。また、弘前大学教育学部美術科デザイン専攻の方々が昭和34年に創立され、青森県デザイン界で大きな足跡を残されながら、昨年惜しまれて解散した「デザイングループ60」にも所属され活躍。昭和30年代から40年代に青森美術展覧会で写真とデザイン部門で県展選抜賞、奨励賞を何回も受賞されて

ております。当地方で国際写真サロン展は、鷹山宇一記念美術館において第57回展から毎年開催されてきました。これまで毎回欠かさず来館されておられた地元の国分氏が入賞された事はとても嬉しい事だと思います。入賞作品は9月2日から12日まで美術館で開催されます。「第64回国際写真サロン展」に全世界の入賞作品と一緒に展示されます。ぜひ足をお運びください、ご鑑賞ください。又、国分光明氏に続く入賞作家が当地方から出る事を願っております。

わたしの  
おすすすめ  
美術館

### 東京都写真美術館

石田 清剛

JR・地下鉄恵比寿駅より徒歩5分、動く歩道が駅から続いています。東京都写真美術館は平成2年6月1日に第1次開館しました。

面積は約1,130㎡、展示スペース432.9㎡で写真だけの展示でした。平成5年度に総合開館した時は、面積約7,000㎡、写真と映像を展示する我が国で初めて、また国際的にも数少ない写真の総合的な美術館です。収集の基本方針は、①国際的視野に立つて国内外の芸術性、文化性の高い作品の収集。②写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家、作品を幅広く体系的に収集。③歴史的に評価の定まった作品を重視すると共に各種展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集。④東京を表現、記

**東京都写真美術館へは・・・**

- 所在地 ●〒153-0062東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿がーテンプレイス内
- Tel・Fax ●03-3280-0099・03-3280-0033
- ホームページ ●http://www.syabi.com
- 開館時間 ●10:00～18:00(木・金は20:00迄)  
※入館は閉館の30分前迄。1Fホールは上映時間毎に異なります。
- 休館日 ●毎週月曜日(休館日が祝日又は振替休日の場合、その翌日)  
年末年始(12月28日～1月1日)
- 入館料 ●展覧会・上映会によって料金が異なります。  
※1F入口と2Fホールにある案内カウンターにて、インフォメーション案内とともに展覧会チケットの販売をしています。
- 交通機関 ●JR恵比寿駅東口より動く歩道使用徒歩7分(恵比寿がーテンプレイス内)  
お車でご来館の際は恵比寿がーテンプレイス内の駐車場を使用。

※上記情報に変更等ある場合もありますので、お出掛けの際には情報のご確認をおすすめします。

録した国内外の写真作品。⑤日本の代表的作家については重点収集し、その作家の創造活動の全体像を表現し得る点数を収集することとし、総合開館時には1万点以上を収蔵、現在は2万点になろうとしていきます。その内約7割が国内作品で3割が海外作品です。また資料として出版物(写真集、専門書、雑誌等)についても収集を行っておりこれは図書館で閲覧できるようになっています。映像工夫館は平成5年に併設され内容を写真だけに限定せず、もっと広い意味での映像をテーマにして展示するスペースで、幻灯機やゾートロップ(筒型)の動画再生装置)などの初期の映像装置からビデオアートやCG(コンピュータグラフィック)デジタル映像などの最先端の映像表現まで広がりを持つ映像分野を取り扱っています。教育普及部門は写真美術館の収蔵作品、資料、研究などと来館者の方々をつなぐ役割を担っています。

写真と映像の2分野を持つ特徴を十二分に生かしながら、美術館の内外でユニークな活動を展開し、展覧会やワークショップについての深い理解が得られる様に独自のシートやガイドを作成しています。

【七戸町/友の会会員】

# 「イタリアルネサンス美術紀行」 「ご参加の皆さんからのお便り」

## ナポリ・ポンペイの旅

十和田市／小泉久美子

フィレンツェのホテルを7時30分にバスで出発し、一路ポンペイへ。

途中トイレ休憩をかねてカメラの専門店で見学。ついつい財布のひもが緩み加減になりました。ナポリ湾を見下ろす場所で記念撮影、昼食の後ポンペイ到着。

ポンペイはナポリの南東約20kmの地中海沿いにあり、当時、周囲約3kmの町に約25,000人が住む商業で栄えた町でした。西暦79年8月24日、北方約10kmにあるヴェスヴィオ火山が大噴火、火山れきや火砕流などで埋れてしまいました。

ポンペイ遺跡は18世紀初めに井戸掘りの作業中に劇場の柱が見つかったことがきっかけで発見され、1748年当時ナポリを支配していたブルボン家の王カルロス3世が付近の発掘を命じたそうです。

私たちの一行は、特別ということで普段は入れない所を見学出来ました。

当時は近くまで海だったそう、風呂に入りながら、周辺の景色や海を見渡せた絶景の場所であり、上流階級の生活の一端をかいま見れます。

何世紀もたった今、この場所に立ち壁の絵の優雅さ等からも当時の栄華を知ることが出来ました。ポンペイの街並みでの発見を少しご紹介します。

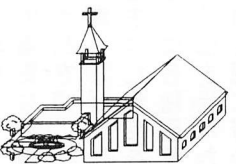
☆屋敷 りっぱな家には広い玄関ホール、床にみごとに色彩のモザイク。中庭を造り上流階級の生活空間があります。

☆歩道 石畳の歩道・車道が分離されて造られていました。馬車をつなぐ穴もありました。

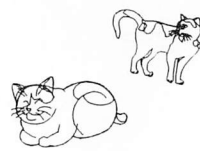
☆水道管 各家庭に水道が引かれており、水道管は鉛で出来ていたためポンペイの市民は鉛中毒に苦しむ人が多かったらしい。

## イタリア紀行

- ・大寒の成層圏に浮く命
- ・尖塔に睡む一村冬温し
- ・大寒のコインをう児に未来あれ
- ・濡れ雪や足の落書きADIOSと
- ・春めくや母支へ来し娘の笑顔



【十戸町／福田 露幸】



- ・高ぶりしままにローマの雪を踏む
- ・麦の芽や尖塔に日の薄れゆき
- ・コロッセオ足袋履かせたき猫二匹
- ・冬草や遺跡に今も娼婦の家
- ・むらさきの斜塔の影や冬夕日

【十和田市／小向 萩月】

## 小川敏雄さんの イタリアスケッチ



▼ヴェネチアにて

▲フィレンツェ  
ミケランジェロ広場より  
ヴェッキオ橋を眺める

## 友の会会員登録の更新と 新規会員入会の誘いのお願い

前回のお知らせで更新及び新規入会の手続を下さいました会員の皆様、誠にありがとうございました。今年度も会員の皆様方に芸術文化に一層親しんで頂けるよう、研修旅行、講演会などを企画して参ります。今後とも、友の会並びに美術館の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、更新手続きがお済みでない会員の皆様には、ぜひ今年度もご継続下さいますようお願い申し上げます。ご更新、新規ご加入の手続は、美術館窓口、郵便振替用紙による方法にて随時受け付けております。会員の種別、会費、特典につきましてはこれまでと同様です。詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

## 友の会設立10周年へ向けて 原稿募集のご案内

今秋発行予定の友の会設立10周年記念特別号へ、会員の皆様からの寄稿をお願い致します。10年の歩みの中での思い出やご意見をお待ちしております。400字詰め原稿用紙2枚程度でお願いします。※締切は平成16年4月30日※

## ◆編集後記◆

「君よ知るや 南の国」と謳われたイタリア。ルネサンス美術の至宝に触れ、数々の絵画や彫刻に深い感動を覚えました。

次回の海外研修に想いをこめつつ、イタリアの余韻に酔いながらの34号編集でした。

今年度は友の会設立10周年を迎えます。

より充実した友の会活動となるよう、役員一同頑張つて参ります。会員の皆様のご協力をよろしくお願いたします。

編集係 E.T